

2010年10月から 2011年1月のその他の活動

YMCA/YWCA合同祈禱会



11月18日、東京YMCA、東京YWCA、在日本韓国YMCA共同主催によるYMCA/YWCA合同祈禱会が本会9階ホールにおいて行われました。今年は「女性が創り出す安全な世界」をテーマに礼拝が捧げられ、石井摩耶子氏(恵泉女学園大学名誉教授、日本YWCA理事)が「生きとし生けるもののいのちが輝くとき」と題してメッセージをお話くださいました。続く懇親会では軽食を囲みながら各団体の近況が報告され、最後は出席者全員で「故郷の春」と「イムジン河」を韓国語で歌いました。

連続講座「移住者のリアリティ」第4期

「レイシズムを考える」をテーマとした連続講座「移住者のリアリティ」第4期の講座が終了しました。11/13 木下ちがや「排外主義運動の系譜と現在—ネオリベラリズムと国家の変容という視角から」には20名、11/27 金明秀「ナショナル・アイデンティティと排外主義を規定するもの」には26名、12/4 安田浩一「レイシズムの現場を取材して—社会を息苦しくするものはなにか」には43名の参加者が集まりました。各回の内容はYMCAのホームページで紹介いたします。

子どもクリスマス



12月18日、ビビンパキャンプや子ども韓国語教室に参加した子どもたち16名が集まり賑やかに子どもクリスマスが行われました。子どもたちはリーダーたちが準備してくれたゲームや工作を楽しみ、サンタさんからのプレゼントももらい、笑顔でいっぱいでした。

第3回 チャリティーゴルフ大会



12月23日、冬晴れの好天の下、ゴールドンレイクスカントリークラブ(栃木県)で第3回チャリティーゴルフ大会が開催されました。多くの会員、企業の皆様に協賛をいただき、43名の選手が集まり開催された今大会の優勝者は金熙錫さんでした。収益は(1)愛のきずな回復—困難な状況に置かれている韓国人の支援、(2)パレスチナにおける平和構築—東エルサレムYMCAとの交流プログラム、(3)アジアの指導者養成—在日留学生への奨学金、のために用いられます。

第3回 日本と韓国 童謡の集い



YMCAと東京センテニアルYサービスクラブ(以下センテニアル)との共催により第3回日本と韓国 童謡の集いが1月15日、9階ホールを会場に開催されました。韓国の童謡は申鉉錫牧師(センテニアル)、日本の童謡は小川圭一さん(YMCAずずらん会)、井川幸子さん(センテニアル)がそれぞれ指導を担当しました。参加者全員で声を合わせて日韓でよく知られる童謡を歌い、会場はとてもあたたかい雰囲気になりました。ゲストとしてお迎えした神田女学園の生徒の皆さん、東京韓国学校オモニ合唱団の皆さんも素晴らしいコーラスを聴かせてくださいました。

2011年2月から3月の予定



◆2・8 独立宣言第92周年記念式
1919年2月8日、当時東京に在住していた朝鮮人留学生数百名がYMCAに集まり、密かに準備していた独立宣言を高らかに読み上げました。この留学生たちの命懸けの行動が、朝鮮における全民族的な3・1独立運動を引き起こす一つのきっかけになりました。

YMCAでは今年もこの先輩指導者たちの勇気と思いを継承し、過去の不幸な時代を繰り返すことなく、韓国と日本の和解と共生を願って、**2月8日(火)午前11時**より「2・8独立宣言記念式」を開催します。式典には韓国政府をはじめとする内外の貴賓が多数出席される予定です。また関西では恒例の2・8記念礼拝が2月2日(水)に京都教会において捧げられます。



◆韓国伝統楽器・舞踊教室発表会
30年近くわたってYMCAで続けられている韓国伝統楽器・舞踊教室の発表会が今年も**3月5日(土)午後2時半**よりYMCA地下スペースワイホールで行われます。まだ習い始めたばかりの初心者からセミプロ並みのベテランまでが一堂に集います。関心のある方はどなたでもご覧いただけます。入場無料。

【東京韓国YMCA】

- 1/27(木) 日本語学校スピーチコンテスト
- 2/8(火) 2・8独立宣言第92周年記念式
- 2/24(木) 韓国文化体験交流会(千代田区高齢者センター)
- 3/5(土) 韓国伝統楽器・舞踊教室発表会
- 3/7(月) 第214回教界指導者朝餐祈禱会
- 3/17(木) 日本語学校卒業修了式

【関西韓国YMCA】

- 2/2(水) 2・8記念礼拝(京都教会)
- 2/6(日) 第28回 枚方冬の集い
- 3/11(金) 第98回教界指導者早天祈禱会

《編集後記》

反省会終わっていつの間にか締切り…3ヶ月ってあっという間です。(朴) 日本、韓国のダブルである自分のミッションについても改めて考えるきっかけになりました。引き続き考えていきます。(才) 皆さんの協力により、予定の発行日に無事お届けできることになりました。ありがとうございます。第3号もがんばりましょう。(た) 写真が粗かったのを改善しました。モザイクにならなくてよかったです。将来的には「全写真3D」を目指します。(べ) まずは紙面が充実してきた第2号。次号では文化教室発表会のご報告や連続講座のご案内もできると思います。(AT)

『かけはし』次号は**2011年4月**発行予定です。

KAKEHASHI かけはし 2011 Jan. vol.2
 発行人: 金秀男 発行: 在日本韓国YMCAアジア青少年センター
 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5
 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
 http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
 ayc@ymcajapan.org



twitter ツイッター @zainichiyca
より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。



在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan
Asia Youth Center

かけはし

オリーブ収穫プログラム in パレスチナに参加して

陣内幸代(東京センテニアルYサービスクラブ)

皆さんはパレスチナがどこに位置しているかご存知ですか。私はこのプログラムを知るまでパレスチナについて全くと言っていいほど知識がありませんでした。テレビや新聞のニュースで“パレスチナ問題”について取り上げられても日本からはるかに遠い国の一事件としか受け入れていなかったというのが正直なところ。それが、何度かこのプログラムについて話を聞く度に“現地はどういった状況なのか”、“現地の人たちはどういう気持ちで生活しているのか”、直接行ってこの目で確かめたいという気持ちが大きくなり、参加させていただきました。



オリーブ収穫中の陣内さん

とって収入源のひとつ)をしたり、難民キャンプや分離壁などパレスチナが置かれている状況を見学してきました。パレスチナ人の生活はイスラエルによって日々脅かされています。イスラエルはパレスチナ人の土地にバイパスロードや、ユダヤ人のための住宅、分離壁の建設を拡大しています。もちろんその土地にはパレスチナ人は入ることはできません。それを少しでも食い止めようと世界各国で様々な活動が行われています。今回のプログラムも約70名が世界中から集まってきました。個人の力は微力でも、その個人が集まれば、その力は計り知れない強さとなります。この体験を私の家族、友人、知り合いなど一人でも多くの人たちに伝え、パレスチナに関して興味を持ってもらうことがまず私ができる一歩だと思っています。



ベツレヘムの難民キャンプの子どもたち

募金にご協力ください
窓口に持参または郵便振替で
00190-4-539049 在日本韓国YMCA

「オリーブの木キャンペーン」
パレスチナの農民の土地を守り、平和を築くためにオリーブを植樹する東エルサレムYMCAのプログラムを支援します。1口3000円で1本の苗木を植樹できます。

聖書に聴く 第2回 鄭順葉 牧師(多摩キリスト教会)

新たなる出発 聖書：フィリピの信徒への手紙 3：12 - 14

放蕩の人生を歩んでいたアウグスティヌスはイエス・キリストを信じ、悔い改め、聖者になりました。どんな人間でもキリストのうちにあって新たな変化を与えられます。

私たちは新たな年2011年を迎え、キリストを通して新たに醸しだされ、新たな人間として、新たに出発することを願います。新たな出発のためにおぼえておかねばならないことを、聖書に聴いてみましょう。

まず第一に、後ろのものを忘れてしまうことです。「なすべきことはただ一つ、後ろのものは忘れ…」(フィリピ3：13、新共同訳)。新たな出発をする者が行うべきことは、まず忘れることです。人生における美しい思い出は自らの足を止めさせ、辛い思い出は自らを挫折させ、前進できなくさせます。成功したことであれ、失敗したことであれ、過ぎたことは全て忘れてこそ、完全に新しい出発ができるのです。

第二に、目標を立てることです。パウロの人生の目標は完全な救いでした。イエス・キリストを信じることによって義を実現し、神の子らしく聖なる人生を送り、天国に帰り、完全なる神の民になることでした。「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を行きとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、

かの日にそれをわたしに授けてくださるのです」(テモテへの手紙 2：4：7-8)。

第三に、走ることです。「神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです」(フィリピ3：14)。

走るということは、目標を定め、そのことに集中して熱心に働くことです。カエサルは「どんなに弱者であってもその力をただ一箇所に集中させれば成功できないことはなく、どんなに強者であってもいくつかの目的にその力を分散させれば一つも成し遂げることができない」と言いました。

私たちはすでに天から授けられた環境、よくない条件は全て忘れ、人生の目標を立て、熱心にその目標を達成するために走って行かねばなりません。

YMCAは青少年運動団体として、また社会体育運動体、市民運動体、生涯教育および文化運動体、社会福祉運動体として、私たちが人生の目標を成し遂げる上で、大きな役割を担ってくれています。若者のためにはもちろん、市民全体を対象とする諸活動を通じて、私たちの人生を潤沢なものとし、意味を持たせる務めを果たしています。

2011年も私たちが人生の目標に向かって走るとき、在日本韓国YMCAが大きな役割を果たしてくれることを期待したいと思います。



張恒星さん (YMCA 韓国語講座 講師)

YMCA 韓国語講座の講師である張恒星 (チャン・ハンソン) 先生が、このたび社団法人海外韓民族教育振興会が選定する海外韓民族教育振興賞を受賞下さいました。



右から2人目が張恒星先生

張先生は1984年から現在にいたるまで、27年の長きにわたって、一学期も休みなく、YMCAで週2回夜クラスの授業を担当してこられました。また千葉県の民団においても長年にわたり夏の子どもキャンプの引率や韓国語教室での指導を務めていらっしゃいます。今回は、こうした韓国語教育および民族教育への長年の貢献が認められての受賞となりました。

11月29日にソウルのプレスセンターで行われた授賞式において、張先生が「私は高校生のときまで韓国語を一言も

話せませんでした。韓国に留学し韓国語を学べたことは恵まれました。この恩を同胞社会にお返しするのは当然のことです」と受賞所感をお話されると、会場は肅然とした雰囲気にも包まれたそうです。

日々ご多忙の先生は、今回授賞式出席のために15年ぶりに訪韓なさいました。高校卒業後、留学のために初渡韓されたときにはその後の生活への不安感が強く、感激どころではなかったそうですが、今回は、なぜこんなにも簡単に来られるところに15年も来なかったのかと、仁川空港に着くや感激がこみ上げ目頭が熱くなったそうです。

先生の情熱的な韓国語文法の授業、一人ひとりに対する丁寧な指導にはこれまでも数多くの受講生が魅了されてきましたが、今回の受賞と訪韓を機に、ご指導の内容はさらに充実しパワーアップされることでしょうか。先生の今後の益々のご活躍をお祈りいたします。(た)



張恒星先生 (右)

考える「かけはし」

第2回

会員である限り、その理念を伝える、広める使命があります。「かけはし」の復刊にあたり、YMCAとして在日本韓国YMCAについて、もう一度、知り、考えるきっかけになればと思います。第2回は在日本韓国YMCAの今日的意義について考えます。

◆在日本韓国YMCAとは？

在日本韓国YMCAは、ソウルYMCAに続く2番目の韓国YMCAとして1906年に東京に設立され、前年に閉鎖された在日公使館に代わり、日本に来る留学生の保護、日本語教育、住居の世話、進路相談等の活動を始めました。1919年には朝鮮における「3・1独立運動」の導火線となった「2・8独立宣言」の場としてなど独立運動の拠点にもなりました。

現在は、東京、関西において、「在日同胞文化の創造と多文化共生社会に向けて」をスローガンに、韓国文化を中心とした国際文化活動、日本語学校、韓日文化交流、宿泊研修事業等を展開すると共に、地域社会奉仕活動を進めています。

◆在日本韓国YMCAの今日的意義

在日本韓国YMCAが設立された1906年は、韓国は外交権を失い、日本の植民地支配が進められた時代であり、また、戦後は居住者である在日コリアンは差別等と闘いながら、民族教育・文化継承の場が必要でした。

在日コリアンのアイデンティティの確立。日本YMCAと韓国YMCAに二重加盟するいわゆるダブルの使命はまさにそこにあったといえるでしょう。

その在日コリアンも世代交代が進み、ここ数年は特に日韓の文化交流が深まっています。また、日本にやってくる韓国人も増え続け、逆に特別永住権を持つ在日コリアンたちは少子化や日本国籍取得などの理由により毎年1万人前後減少しています。

そのような今の日本社会において在日本韓国YMCAはどのような役割をすべきなのでしょうか。

今は、在日コリアンとしての生き方は次のステージに来ているといえます。もちろん、3世 (もしくは4世) へと世代が変わっても変わらないアイデンティティに対する葛藤はあります。だからこそ社会状況が変化の中で生まれた多様性を持っているといえるでしょう。それは、このグローバル化した社会の中で他民族に閉鎖的だといわれる日本社会が様々な存在を受容するシステムを作り上げていく中での中心的存在、キーになるべき存在でしょう。

そこでそのベースとして「アジア青少年センター」としての役割も持つ在日本韓国YMCAは日本、韓国のみならずアジアを中心とするそれこそ「多文化共生社会」を創造する場とならなくてはならないでしょう。つまり日本の中での多文化の理解、共生の「かけはし」となることが求められているのです。(才)

2010年10月から12月のプログラム

クリスマスの夕べ 教会YMCA合同クリスマス会

12月12日、イエス・キリストの聖誕を祝う、YMCAクリスマスの夕べが行われました。例年同様、教会とYMCAの合同クリスマス会として開かれました。

金君植牧師 (東京キリスト宣教会) が「恐れるな」というメッセージを伝え、在日大韓基督教会関東地方連合青年会による劇や連合聖歌隊のハレルヤ合唱、そして韓国から来日したAfter Jesus Association with Pastor Lee & Friendsの皆さんによる特別賛美などで来場者はクリスマスを祝いました。最後にはサンタが登場し子どもたちにプレゼントを配る場面もありました。関西韓国YMCAにおいても12月11日YMCAクリスマス祝賀会が行われ、会員の皆さんが楽しいお祝いの時間を過ごしました。(朴)



After Jesus Association with Pastor Lee & Friendsの特別賛美



バザーの目玉の一つ、民族料理の屋台。ポスターも学生たちが描きました。

毎年恒例！YMCAバザー Y・와이フェスティバル2010

YMCAバザーが11月20日に開催されました。

玄関前は韓国をはじめ中国やネパール、台湾などの各民族の屋台でにぎわいました。毎年好評の掘出し市では、今回は特に開店前に長い行列ができるという珍風景も見られました。キムチやマッコリなどの韓国物産展はもちろん、辛ラーメンと海苔巻きをセットにした食事コーナー、人形・雑貨・靴などの売り場、トラ・ゾウ保護基金やパレスチナ関連の展示、そしてタロット占いや似顔絵コーナーのような子どもから大人まで楽しめる場などバラエティ豊かでした。

二面太鼓の韓国舞踊とサムルノリで盛り上がった会場はカラオケ大会、ゲーム大会、オークションそして大抽選会へと続き、今年も大韓航空から提供された韓国往復航空券が1等当選者に渡されました。

各文化教室と日本語学校、ワイズメンズクラブからのたくさんのボランティアの積極的な参加、協力によって前年を上回る利益をあげることができました。収益金は日本語学校学生の奨学金や多文化共生をめざす諸団体への献金として有効に用いられます。(朴)

アジア・太平洋YMCA同盟アドバンススタディに参加して 金弘明(在日本韓国YMCAスタッフ)

11月14日より4週間、香港で行われたアジア・太平洋YMCA同盟の主催するアドバンススタディに参加しました。アジアのさまざまな課題と参加者各々のYMCAがもつ課題を関連させ、ミッションを共有し、YMCA運動をどのように作り上げていくかを考える研修でした。28回目の今年は西アフリカのトーゴ、中国、香港、ミャンマー、フィリピン、スリランカ、韓国、日本から12名が参加しました。参加者のYMCA紹介と自身の経験、今後のビジョンを語るところからスタートし、“小さくされた者”のための神学、グローバリゼーションのはらむ課題など理念的なものから、組織分析、プロジェクトの策定、プロセスの重要性、共感・伝達など実践的な手法まで幅広く学びました。また社会のさまざまな領域で活動するNGO団体・グループの訪問・視察をおこない大いに刺激を受けました。他の国のスタッフと文字通り寝食を共にし、多くのことを語りあう中で、YMCAは地域の課題に取り組み、コミュニティに根ざしながら国際的な連帯・活動をする運動であることをあらためて感じることができました。



募金にご協力ください

窓口に持参または郵便振替で
00190-4-539049 在日本韓国YMCA

「YMCA国際協力募金」

すべての人々が国、民族、宗教の違いを認め合い、平和にいきいきと暮らすことができる社会をつくり出すための国際協力・地域奉仕活動のために用いられます。